

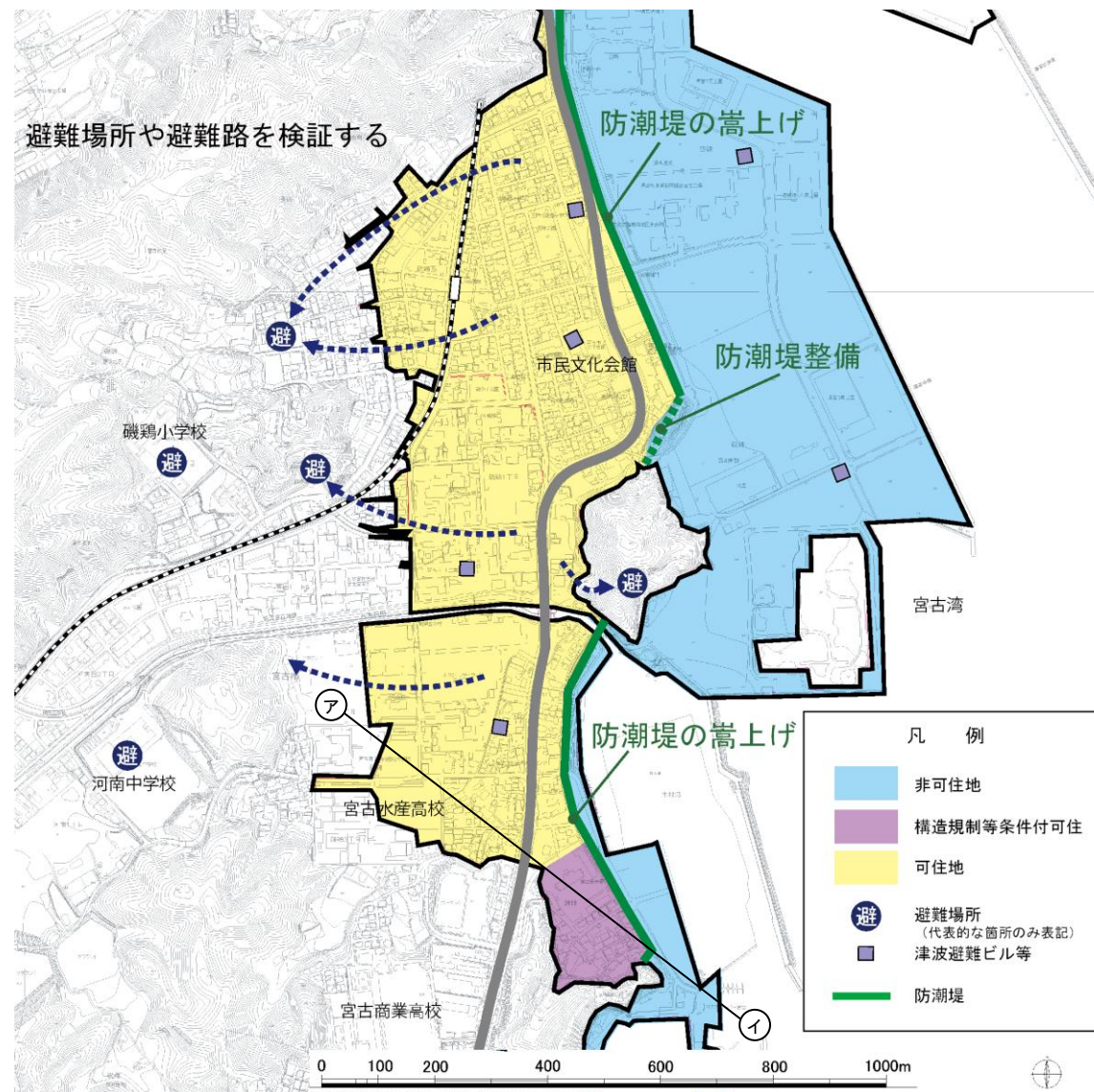
■磯鷄地区の復興パターン案について

被害の状況	<ul style="list-style-type: none"> 防潮堤を越流した津波により、国道45号沿線の建物が甚大な被害を受け、浸水被害も市街地の広範囲に及んだ。 浸水面積は113.4haにわたり、浸水高はTP+2.3~7mとなり、最大浸水深が5.6mに達した。 浸水区域内の建物の19.2%が流失または撤去となる被害を受け、宮古水産高校の校庭まで浸水が及んだ。
復興まちづくりの考え方	<ul style="list-style-type: none"> 比較的頻度の高い津波※1に対しては、防潮堤等のハード整備により防ぎ、今後、起こりえる最大クラスの津波※2に対しては、ハード整備とソフト対策を組み合わせた多重防災型まちづくりを行う。 住宅地は、予想浸水深※3の大きい区域を高台等への移転による確保を検討するとともに、小さい区域は、予想される建物被害の状況に応じ現地再建及び建物の構造規制を組み合わせる。 非可住地であっても、安全に避難できるよう避難路の整備や津波避難ビル等の整備を行う。

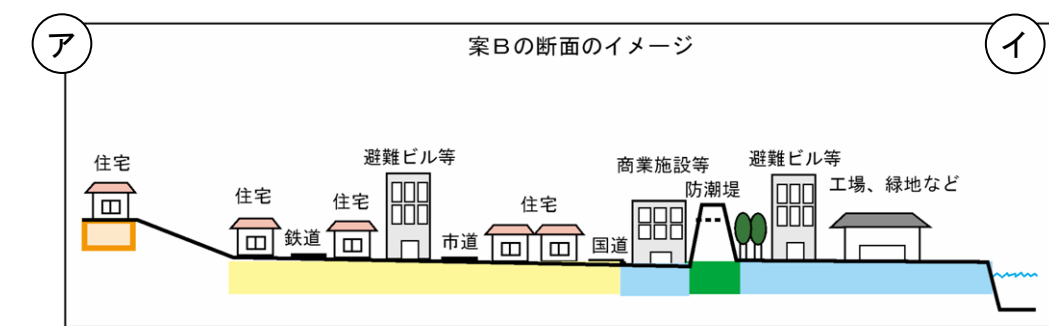
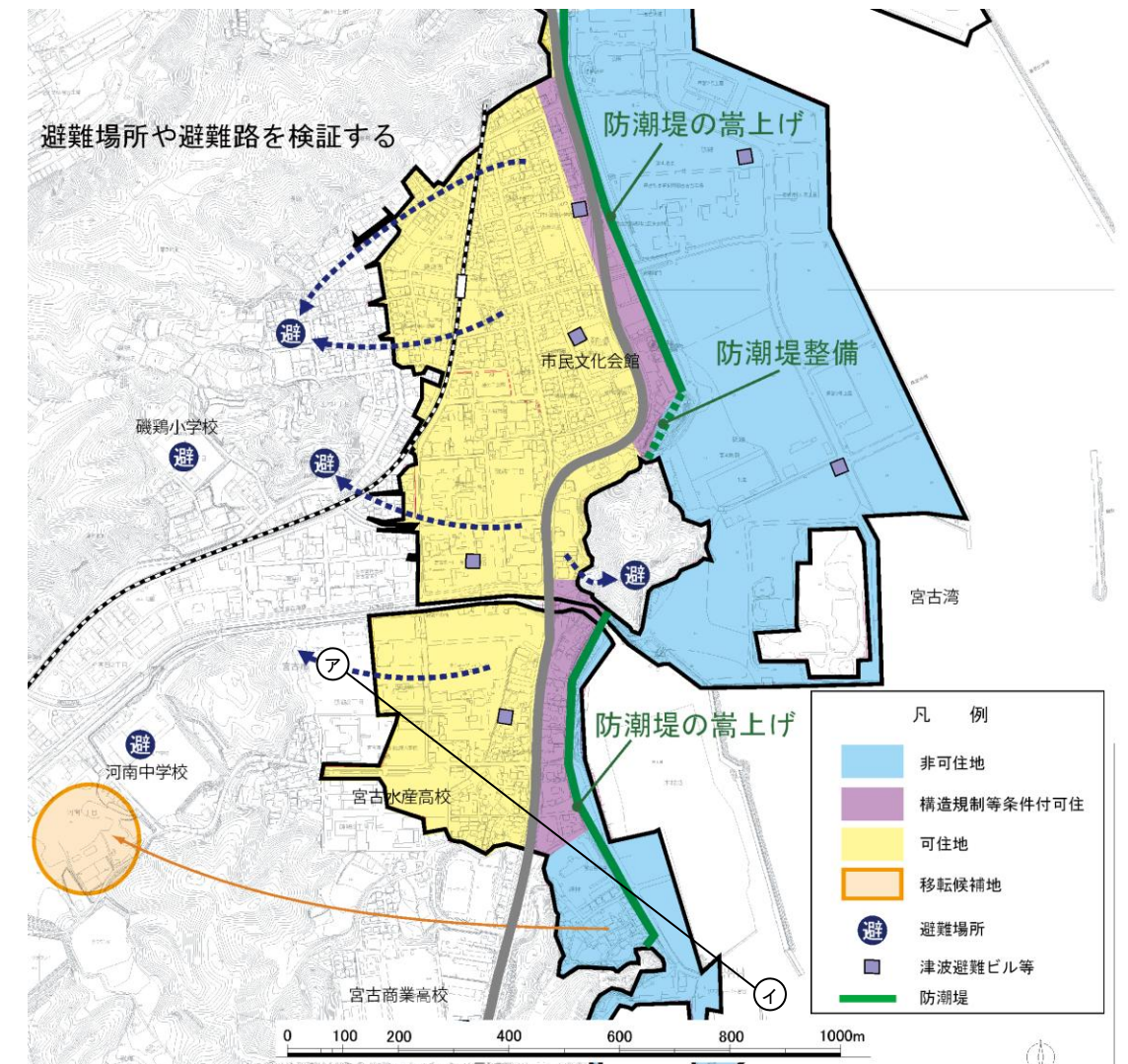
復興パターン案

イメージ図

案A：予想浸水深が小さい区域は現地再建を基本とする。
 予想浸水深が比較的大きい区域は建物の構造規制等による条件付き可住地とする。



案B：予想浸水深が小さい区域は現地再建を基本とするが、水勢が強く被害の拡大が予想される防潮堤沿いの区域は建物の構造規制等による条件付き可住地とする。
 予想浸水深が比較的大きい区域は高台等の移転を検討する。



特徴

- 建物の構造強化が必要になる区域もあるが基本的に現地再建ができる。
- 建物の構造強化が必要になる区域もあるが基本的に現地再建ができる。しかし、一部の区域では高台等への移転が必要になる。

※1 概ね数十年から百数十年に一度程度で発生すると想定される津波

※2 今回と同様の津波

※3 今後、起こりえる最大クラスの津波により予想される浸水の深さ